



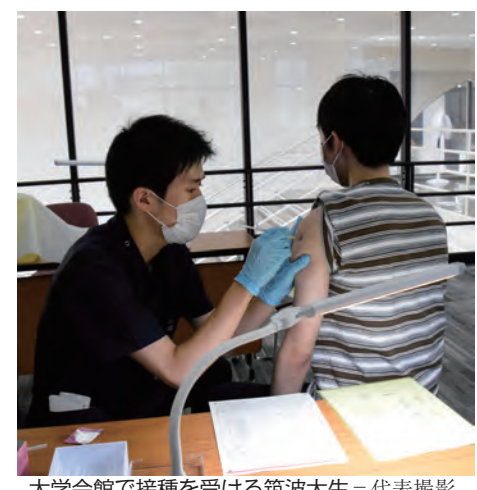
第365号
編集責任 筑波大学新聞
編集委員会
TEL・FAX 029(853)6699
E-mail shinbun@un.tsukuba.ac.jp
発行所 筑波大学
茨城県つくば市天王台1-1-1

注目記事

- 自動配送ロボット走行試験
「科学のまち」象徴する展示
弓道インカレ女子優勝
大学説明会今年もオンラインで
海外留学部分的に再開

特集
筑波大教員に聞く
筑波大と五輪・パラ 6・7
ミニ特集
本紙コーナー「反射鏡」
性別表記を考える 3

職域接種 学生や教職員に
約8000人が1回目接種完了



大学会館で接種を受ける筑波大生=代表撮影

筑波大は8月30日、学生や教職員を対象に新型コロナウイルスワクチンの職域接種を始めた。1回目の接種は8月30日～9月22日に行われ、約8000人が接種を終えた。2回目の接種は原則として1回目から4週間後となり、9月27日～10月20日に実施される。筑波大は6月23日に厚生労働省に職域接種を申請し、当初は7月末に1回目の接種を開始する予定だったが、ワクチン供給不足の影響で開始が延期されていた。

接種会場は大学会館で、健康管理センターと筑波大附属病院の医療従事者が務め、1回目の接種期間には1日あたり約500～1000人の接種があった。打手は保

育組織ごとに予約開始日時が設定され、8月23日から順次予約サイトで受付が始まった。リスク・安全管理課によると、予約サイトへのアクセスの集中で一時的にサーバーがダウンする状態が生じたが、十分な量のワクチンが確保されており、希望者全員が予約できた。

1回目の接種を受けた約8000人の内訳は、学生約7000人、教職員約700人、委託業者など約300人。また、筑波技術大(つくば)

教育組織ごとに予約開始日時が設定され、8月23日から順次予約サイトで受付が始まった。リスク・安全管理課によると、予約サイトへのアクセスの集中で一時的にサーバーがダウンする状態が生じたが、十分な量のワクチンが確保されており、希望者全員が予約できた。

1回目の接種を受けた約8000人の内訳は、学生約7000人、教職員約700人、委託業者など約300人。また、筑波技術大(つくば)

教育組織ごとに予約開始日時が設定され、8月23日から順次予約サイトで受付が始まった。リスク・安全管理課によると、予約サイトへのアクセスの集中で一時的にサーバーがダウンする状態が生じたが、十分な量のワクチンが確保されており、希望者全員が予約できた。

新型コロナ
4～8月感染者131人
課外活動団体をクラスター2例

筑波大は今年度の学生・教職員の新型コロナウイルス感染者(附属病院・附属学校関係を除く)数が9月24日現在で138人になったと公表した。この間、7～8月には課外活動団体をクラスター(感染者集団)が2例発生していた。新型コロナウイルス感染症リスク対応チーム代表の加藤和彦副学長(総務人事・情報環境担当)は「大学として対策を講じ、学生も協力していただけたが、クラスターが発生したのは事実。感染力の強いデルタ株の影響で、これまでみられなかった状況でも感染する事例が出てきている」と指摘した。

2020年度の感染者は、4月が9人、5月が14人、6月が1人、7月が1人、8月が23人だった。今年度は4月が3人と推移してきた。1「デルタ株」が拡大した影

響で、7月には25人と急増し、8月には80人で過去最多となった。今年4～8月の感染者数は131人で、既に20年度の約5.7倍に上っている。

7月に発生したクラスターでは、9人の学生が感染した。筑波大が行動を分析した結果、活動外での集



筑波大学蹴球部の角田涼太郎(体専4年)がJ1横浜F・マリノスとプロ契約を結んだ。(2面に関連記事)

ば市天久保)の学生や高エネルギー加速器研究機構(同市大穂)の教職員なども受け入れている。

使用するワクチンは米モデルナ社製。8月に異物混入で使用見合わせや自主回

感染状況学内外に公表
7月7日からサイトで

筑波大は7月7日、新型コロナウイルスの感染状況について、ウェブサイトで学



女子オムニウムで銀メダルを獲得した梶原

五輪・パラで筑波大勢躍動
自転車梶原が銀、ゴールボール高橋が銅

東京五輪(7月23日～8月8日)と東京パラリンピック(8月24日～9月5日)では、筑波大関係者が大活躍した。在学生では、五輪の自転車トラック種目女子オムニウムで梶原悠来(体専2年)が銀メダルに輝き、パラリンピックではゴールボールで高橋利恵子(障害2年)が銅メダルを獲得した。(寺尾優汰||比較文化学類2年、大和祐菜||障害科学類3年、6、7面に関連記事、8面に関連記事、12面に関連記事)

卒業生では、五輪の柔道男子81kg級で永瀬貴規(旭

計を学生、教職員別に示している。また、クラスター(感染者集団)が発生した場

訂正

364号1面の「駅前クレスト 再オープン」の記事で、筑波都市整備の本社所在地を「同市竹園」として

筑波大の在学生と卒業生、附属学校の在学

した梶原と永瀬は、8月20日に永田泰介学長を

い」と抱負を語った。パラリンピックで杉野明子(ヤフー)とペアを組んだ

筑波お話し
この夏休みは、心がざわついた。就職先が決まった4年生。インターンで忙しいと言いつつ、充実した表情を見せる3年生。先輩たちの姿に、自分は将来に向けて何も準備していないと焦りを覚えた

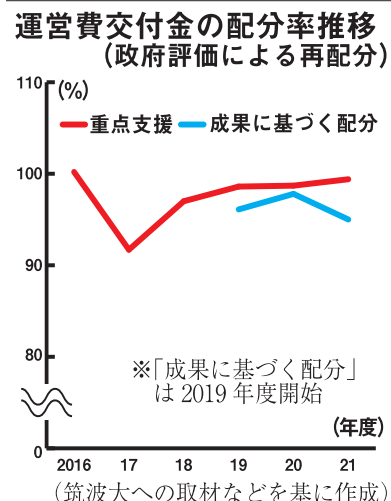


# 再配分で1億8631万円減

## TOP10%論文数で目標届かず

文部科学省は8月6日、国立大学法人に交付する運営費交付金のうち、今年度の「三つの重点支援の枠組みによる配分」と「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の評価結果を公表した。各大学から提出された交付金を、目標達成度や成果に応じて再配分する制度で、筑波大への再配分率は「重点支援」が提出額の99.4%、「成果に基づく配分」が同95%だった。提出額を下回るのは「重点支援」が5年連続、「成果に基づく配分」は制度開始以来3年連続となる。(天野隼太比較文化学類2年)

「重点支援」は、国立大学を3類型に分け、類型に従って各大学が自ら設定した目標の達成度などを評価して再配分額を決める。国立大学全体の再配分総額は前年度比50億円減の200億円。



「成果に基づく配分」は、各大学を重点支援の3類型ごとに相対評価し、配分額を決める。今年度の国立大学全体の再配分総額は前年度比150億円増の1000億円。

筑波大は、大学施設の有効活用や適切な維持管理などを評価する、施設マネジメント改革状況などで高い評価を得たが、若手研究者比率の評価などが振るわず、再配分額は提出額比1億8206万円減の38億3967万円だった。

この結果、筑波大に再配分される今年度の運営費交付金の総額は計45億9217万円、提出額比1億8631万円減となった。

また、再配分額も含めた今年度の筑波大の運営費交付金総額は前年度比11億8900万円減の359億2783万円となった。財務企画課によると、交付金のうち、土地購入に関する償還費用の減少が影響した。筑波大の21年度当初予算は、外部資金などを含めて1010億6599万円。同課の三井俊祐課長は「TOP10%論文数など研究に関する評価が厳しい結果だったが、一方で寄付金など外部資金の獲得を進め、一定の成果が上がっており、引き続き大学全体として財務基盤の強化に努めていきたい」と語った。

# 角田 蹴球部退部しプロへ

## 「将来を見据えて決断した」

【一面参照】筑波大学蹴球部の中心メンバーとして活躍してきた角田涼太郎(体育4年)が、7月1日にJリーグのF・マリノスとプロ契約を結んだ。蹴球部は退部するが、筑波大生の籍は残り、大学生のままプレーする。昨年10月に来シーズンからのF・マリノス加入が内定していたが、今シーズン途中でプロクラブへの加入を決断した経緯や仲間への思い、今後の目標などを聞いた。

(聞き手・細井真生II人文学類2年)

「プロ契約を早めたのはなぜか」

蹴球部の中心でプレーをしてきたが、サッカー選手としてやっていく上で、このままではいけないのか悩んだ。居心地が良くなりすぎて、もっと成長するにはワンランク、ツーランク上のレベルで早くプレーすることが必要だと考えた。昨年10月の内定時から退部を考え始めてはいたが、今年1月に小井土正亮監督(体育系・助教)とF・マリノスに正式に意思を伝えた。もう少し早くプロ契約を結ぶ選択をした。葛藤もあったが、

「面参照」筑波大学蹴球部の中心メンバーとして活躍してきた角田涼太郎(体育4年)が、7月1日にJリーグのF・マリノスとプロ契約を結んだ。蹴球部は退部するが、筑波大生の籍は残り、大学生のままプレーする。昨年10月に来シーズンからのF・マリノス加入が内定していたが、今シーズン途中でプロクラブへの加入を決断した経緯や仲間への思い、今後の目標などを聞いた。

(聞き手・細井真生II人文学類2年)

チームに何か残したいと思って半年間活動し、やり切れた。大学生は自由度が高い分、蹴球部では栄養や睡眠、休養など体調を自分で管理し、トレーニングも自分でコーディネートすることを学んだ。今後、プロとして生かしていきたい。

蹴球部員に対する思いを聞きた。

一緒にサッカーをしてきた大切な存在だ。撮影や運営など裏方として活躍してくれた部員もいる。彼らの支えがなければ蹴球部は成り立たない。本当に感謝している。

「今後の目標は」

まずは試合に出ること、その先は日本代表を目指している。多くの人に愛される活躍をしたい。多くの先輩がJリーグで活躍し、刺激をもらっている。2年間一緒にプレーした三笠選手とは進路を決める際に連絡を取った。またいつか日本代表として同じ舞台でプレーできるように頑張りたい。

「小井土監督とは何を話したか」

相談というより、こうしたいという意思を伝えた。その意思を尊重し、認めてくれて感謝している。「これからは一人のファンとして応援している」と言ってくれた。小井土監督は僕も「選手一人一人をうまく育ててほしい」と言っているのを感じる。クラブ内の競争は激しいが、全員が優勝という目標に向かっており、いい雰囲気を感じる。

# 自動配送ロボット 走行試験

## 楽天とホンダで

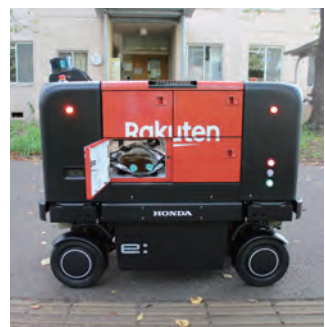
楽天グループ(楽天、本社:東京都世田谷区)と本田技術研究所(ホンダ、本社:埼玉県和光市)は、ホンダが開発した自動配送機能を備えた車台に、楽天が開発した商品配送用ボックスを搭載した自動配送ロボットII号機IIの走行試験を7月19日から9月17日にかけて、筑波大の平砂・追越学生宿舎周辺で実施した。

(車谷郁美II社会学類2年、写真も)

期間中、走行試験では、サクラテラス前から追越学生宿舎までの約500mを自動配送ロボットが1日4〜5往復した。安全上の問題やシステムの動作に課題はないかなどの確認や、走行データの蓄積を行った。

試験で使われたのは、縦124cm、横70cm、高さ114cmの箱型の自動配送ロボット。走行経路や停止する箇所についての情報が事前に設定されており、それに従って目的地まで自動で商品運ぶ。ホンダが開発した交換式のバッテリーで駆動するので、充電を待つことなく商品配送を継続することが可能。

配送ボックスは、四つに仕切られており、一度に最大4人分の商品を配送することが可能。ロボットの正面上部には周囲の障害物などの距離を測ることができ、センサーが搭載されている。予期しない障害物や人の飛び出しなどがあつた場合は、セン



サーが反応して停止する。他にもカメラが四つ付いており、スタッフがロボットの周囲の状況を遠隔地から確認できる。

試験では楽天モバイルの通信回線を使い、スタッフ1人が走行地点から最大で約650m離れた場所から自動配送ロボットの遠隔監視をした。ロボットは人通りが少ない場所では時速4km/hで走行していた。

ロボットの事業課の牛嶋裕之シニアマネージャーは「(宿舎周辺での)走行試験は、(生活)空間を走行して商品運ぶ(近)く、意義があつたと語った。

# 夏の課外活動に打撃

## 1カ月間全面自粛で

茨城県が「一部活動の全面禁止」を求める独自の非常事態宣言を出したことを受け、筑波大の太田圭副学長(学生担当)は課外活動団

体に対し、8月20日から原則として全ての団体活動の自粛を要請し、学生の課外活動が大きく制限された。団体活動の全面自粛は今年1月以降、要請では、学外団体が感染防止対策に責任を持って開催する大会など条件は解除前と同様だ。ただし、顧問教員の対応は一部見直された。宣言中は顧問教員が活動現場で感染防止対策を確実に実行する限り認めるとされた。

また、これらの活動を再開する際は、顧問教員が責任を持ち、活動現場における顧問教員の管理下で、感染防止対策を確実に実行する▽可能な限りPCR検査などで陰性を確認した上で活動する▽学内施設のみで活動する▽団体構成員のみで

人間がこうなれる」ということを世間に証明したい。

「大学卒業までの期間はどう過ごすか」

教育実習を終え、教職の授業があと少しと卒業論文がある。空いた時間を見つけては「頑張れ」「筑波は任せたい」と言ってくれた。自分も負けずに頑張らなければと心を決めた。この先も、プロの舞台と一緒にサッカーをしたいと思っている。

「小井土監督とは何を話したか」

相談というより、こうしたいという意思を伝えた。その意思を尊重し、認めてくれて感謝している。「これからは一人のファンとして応援している」と言ってくれた。小井土監督は僕も「選手一人一人をうまく育ててほしい」と言っているのを感じる。クラブ内の競争は激しいが、全員が優勝という目標に向かっており、いい雰囲気を感じる。

「今後の目標は」

まずは試合に出ること、その先は日本代表を目指している。多くの人に愛される活躍をしたい。多くの先輩がJリーグで活躍し、刺激をもらっている。2年間一緒にプレーした三笠選手とは進路を決める際に連絡を取った。またいつか日本代表として同じ舞台でプレーできるように頑張りたい。

「小井土監督とは何を話したか」

相談というより、こうしたいという意思を伝えた。その意思を尊重し、認めてくれて感謝している。「これからは一人のファンとして応援している」と言ってくれた。小井土監督は僕も「選手一人一人をうまく育ててほしい」と言っているのを感じる。クラブ内の競争は激しいが、全員が優勝という目標に向かっており、いい雰囲気を感じる。

「今後の目標は」

まずは試合に出ること、その先は日本代表を目指している。多くの人に愛される活躍をしたい。多くの先輩がJリーグで活躍し、刺激をもらっている。2年間一緒にプレーした三笠選手とは進路を決める際に連絡を取った。またいつか日本代表として同じ舞台でプレーできるように頑張りたい。

「今後の目標は」

まずは試合に出ること、その先は日本代表を目指している。多くの人に愛される活躍をしたい。多くの先輩がJリーグで活躍し、刺激をもらっている。2年間一緒にプレーした三笠選手とは進路を決める際に連絡を取った。またいつか日本代表として同じ舞台でプレーできるように頑張りたい。

「今後の目標は」

まずは試合に出ること、その先は日本代表を目指している。多くの人に愛される活躍をしたい。多くの先輩がJリーグで活躍し、刺激をもらっている。2年間一緒にプレーした三笠選手とは進路を決める際に連絡を取った。またいつか日本代表として同じ舞台でプレーできるように頑張りたい。

「今後の目標は」

まずは試合に出ること、その先は日本代表を目指している。多くの人に愛される活躍をしたい。多くの先輩がJリーグで活躍し、刺激をもらっている。2年間一緒にプレーした三笠選手とは進路を決める際に連絡を取った。またいつか日本代表として同じ舞台でプレーできるように頑張りたい。

「今後の目標は」

まずは試合に出ること、その先は日本代表を目指している。多くの人に愛される活躍をしたい。多くの先輩がJリーグで活躍し、刺激をもらっている。2年間一緒にプレーした三笠選手とは進路を決める際に連絡を取った。またいつか日本代表として同じ舞台でプレーできるように頑張りたい。

「今後の目標は」

まずは試合に出ること、その先は日本代表を目指している。多くの人に愛される活躍をしたい。多くの先輩がJリーグで活躍し、刺激をもらっている。2年間一緒にプレーした三笠選手とは進路を決める際に連絡を取った。またいつか日本代表として同じ舞台でプレーできるように頑張りたい。

「今後の目標は」

まずは試合に出ること、その先は日本代表を目指している。多くの人に愛される活躍をしたい。多くの先輩がJリーグで活躍し、刺激をもらっている。2年間一緒にプレーした三笠選手とは進路を決める際に連絡を取った。またいつか日本代表として同じ舞台でプレーできるように頑張りたい。

「今後の目標は」

まずは試合に出ること、その先は日本代表を目指している。多くの人に愛される活躍をしたい。多くの先輩がJリーグで活躍し、刺激をもらっている。2年間一緒にプレーした三笠選手とは進路を決める際に連絡を取った。またいつか日本代表として同じ舞台でプレーできるように頑張りたい。

「今後の目標は」

まずは試合に出ること、その先は日本代表を目指している。多くの人に愛される活躍をしたい。多くの先輩がJリーグで活躍し、刺激をもらっている。2年間一緒にプレーした三笠選手とは進路を決める際に連絡を取った。またいつか日本代表として同じ舞台でプレーできるように頑張りたい。

「今後の目標は」

まずは試合に出ること、その先は日本代表を目指している。多くの人に愛される活躍をしたい。多くの先輩がJリーグで活躍し、刺激をもらっている。2年間一緒にプレーした三笠選手とは進路を決める際に連絡を取った。またいつか日本代表として同じ舞台でプレーできるように頑張りたい。

# おわびと訂正

363号1面「飛び込み模本 五輪代表選出」364号2面「五輪壮行会オンラインで開催」の記事で、模本選出選手の所属を「体育P2年」としましたが、正しくは「体育2年」の誤りでした。おわびして訂正します。



# 本紙コーナー「反射鏡」の性別表記を考える

## 性別聞く理由の説明を

性的少数者支援に取り組む筑波大の土井裕人助教(人社系)は、選択肢を設けず、自由回答をもらう方式が、回答者の負担が少ないと考える。「紙面で、



河野禎之助教



土井裕人助教

説明と同意が重要に

「反射鏡」が現在の形になったのは第315号(2014年7月発行)からだ。当時、編集長だった平嶋健人さん(平成27年度社会学類卒、現全国紙記者)によると、それまでは投書形式で、3人程度の学生の声を掲載していた。だが、投書が集まらず、匿名での街頭インタビュー形式にした。第315号では所属・学年のみの記載だったが、



平嶋健人記者

## 14年に現在の形に

第316号(同10月発行)から性別を入れた。平嶋さんは、「一人当たりの文章を短くし、多くの筑波大生の意見を拾い上げること、読者に読みやすさのため」という理由で、親しみを持ってもらえるようにした。性別を入れるのは発言者の情報量を増やすためだったという。



投書形式の第314号(右)と現在と同じ形式の第316号(9月24日、本紙編集室で) = 太田碧撮影 ※画像は一部加工しています

## 記事で性別表記は一般的

匿名者の性別記載は、新聞記事では一般的だ。記載はなくてはならないだろうか。性的少数者への取材を続けている毎日新聞の藤沢美由紀記者は「男性と女性では経験や置かれている立場が異なることがある。性別表記を一律になくすと、その差や問題点が見えなくなってしまう」と話す。毎日新聞も、あるテーマに沿って街の声を集め、紹介してきた。

## 記者の目

筑波大学新聞の新人編集部にあって「反射鏡」取材は、記者活動の第一関門だ。見知らぬ人に声をかけるという取材のノウハウが身につくからだ。私も1年生の時から何度も取材に加わった。最初はとても緊張し、優しそうな雰囲気の人を選んで声をかけたりしていた。それでも、思いもしないさまざまな話が聞けることから、次第に楽しくなった。取材相手に所属と学年、性別を聞いて断られたことは今まで一度もない。

しかし、先輩記者から「男女の別を聞くだけでは、性的少数者は違和感を感じる取材をしている」と言われ、性別を答えたいと悩んでいた人がいた。そうにしていった人がいたことに思い至った。そこで、編集会議で「男性・女性・その他・無回答」と選択肢を増やし、質問紙で回答を求めると提案した。口頭では回答しにくいと思う性的少数者も多いと考えたからだ。

## 性の多様性



性自認は自分の性をどのように認識しているか、どのような性のアイデンティティを自身の感覚として持っているかを示す概念。「性同一性」と呼ぶ場合もある。

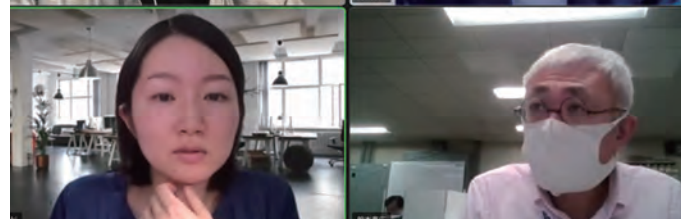
## 自由記述が答えやすい

自由記述が答えやすい

「自由記述が答えやすい」では、性的少数者の当事者たちは、性別の記載についてどう考えているのか。当事者と当事者に理解のない「無性」だと認識して性別の掲載理由や掲載の仕方について十分な説明があり、自由に答えられるのであれば「無性」と回答でき、口頭ではなく質問紙で聞かれる方が答えやすいという。三橋さんは「自由記述欄があれば、自分は『トランスウーマン』と書く『その他』という言葉のニュアンスには疎外感がある。また、性自認を表明したくない人もいると思うので『無回答』も選べるようにすべきだ」と語った。

## 質問紙が望ましい

質問紙が望ましい



オンライン取材に応じる毎日新聞の藤沢記者(下段左)と鈴木広報担当(下段右)。上段は本紙記者

## 自認する性を回答可と明記を

自認する性を回答可と明記を

「自由記述の内容の表記は取材時に個別に相手とやり取りし、同意を得た上で記載する。」



三橋順子さん

「自由記述を導入したとしても、簡潔な表記が求められる反射鏡のようなコーナーで、どう記載すればいいのか悩ましい場合もある。三橋さんは「自由記述欄があれば、自分は『トランスウーマン』と書く『その他』という言葉のニュアンスには疎外感がある。また、性自認を表明したくない人もいると思うので『無回答』も選べるようにすべきだ」と語った。

「自由記述の内容の表記は取材時に個別に相手とやり取りし、同意を得た上で記載する。」

## 取材相手の性自認尊重したい

取材相手の性自認を尊重したい



オンラインで議論する本紙の編集部員

「自由記述の内容の表記は取材時に個別に相手とやり取りし、同意を得た上で記載する。」



# 記者の声



大和祐菜

## 五輪契機に政治に関心を 若者こそ声上げよう

五輪・パラのレガシー

【6・7面に「筑波大と五輪・パラ」特集】東京五輪・パラリンピックは多くの感動を与えてくれた。中でも、日本が銅メダルを獲得したパラリンピック・ゴールボール女子のプレーが目に焼き付いている。意地負けを頼りに、どうしてあんなに素晴らしい関係プレーができるのか。その役割を真っ先に担うべき人間の可能性を改めて知った。筑波大関係者の活躍も目覚ましく、在学生だけでも人がメダリストになった。

一方で、山口香教授(体育系)は、大会開催前から問題と

なっていた。東京五輪・パラリンピック組織委員会の会長だった森喜朗氏の女性蔑視発言。記者と一緒に取材に向いた際の出来事を思い出した。先輩だけが相手の男性から名刺を渡された。相手に女性を軽く見る意図があったかどうかは分からなかった。若者の政治参加を促す団体「NO YOUTH NO JAPAN」の代表で慶應義塾大学の大学院生、能條桃子さん。森喜朗氏に抗議し、再発防止を求めるオンライン署名の発起人となり、10日余りで約16万筆を集めて組織委に提出した。署名提出前に森氏は会長辞任など、社会に対し声を上げ続けてきた。「今回の大会をきっかけとして、多様な意見をきちんと発信できる社会になれば、それは日本にとって非常に大きな財産になる」と語る。

選挙も、自分の意見を社会に発信する一つの方法だ。自民党の総裁選を経て、今年10月には衆院議員の任期が満了になる。総選挙が目前に迫っている。前回2017年の総選挙では20代の投票率は33・85%で各年代の中で最低だった。同年代の皆さん、投票することから始めてみませんか。(筑波大学新聞編集長・障害科学類3年)

# 筑波時評

## 芸術文化 コロナ禍でのオペラ公演 各国の位置づけに違いも

オペラ制作はフィンランドに例えられる。ワインはブドウの品種、産地、収穫年、ブレンドなどに作り手の創意工夫が加わり、どんなコンディションでどんな料理と合わせるかで最終的な味わいが決まる。オペラの制作もスケジュールリングに始まり数年かけてプランを詰め、歌手・合唱・管弦楽・照明・大道具・字幕など数百人規模のスタッフ、コンマ何秒の精度で呼吸を合わせる。私たちが劇場、二や劇場、どこに干渉万別。飛

上がったのだが、その矢先にコロナ禍が襲った。多くの公演が涙を飲んでキャンセルされたが、長引くにつれ各国の芸術文化の位置づけ、捉え方の違いが見えてきた。

州や自治体の補助金が劇場の屋根を支えるドイツでは雇用は守られていたが、ニューヨークやシドニー、ロンドンなど世

界中の名門歌劇場で大胆にリストラや資金カットが行われた。9月は新シーズンの始まり。季節だが、現在、不安を抱える。多くの劇場が再開し始めている。日本は劇場が完全に閉鎖した期間は短く、首都圏ではオペラ公演は昨夏から行われていた響きになる。オーケストラ・ピットは狭いので、大編成の演目には工夫が必要だ。

また、外国人歌手が来日できなくなり、日本人の出番が増えた。チャンスをつまみつかんだ歌手の熱演や若手の成長に接する。試みはいろいろあったが、今

コロナはアーティストの社会的立場の問題もあぶり出した。ドイツでは首相や文化大臣がいち早く援助を表明したが、ニューヨークでは劇場と被雇用者の間に激しい労使対立が見られた。日本は社会や政治に積極的に訴える動きは全体に弱かったように感じる。一番大きな打撃を受けるのはフリーランスといふのはどの国・どの職業も同じで、実態の把握が難しい故に一層深刻である。

# 反射鏡

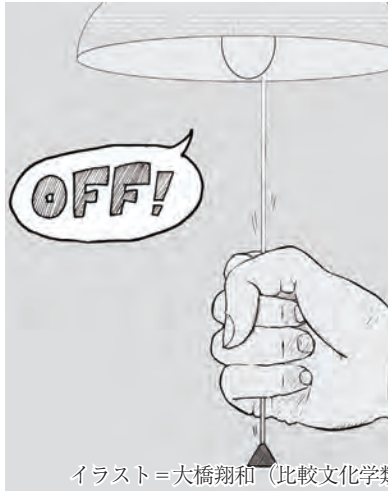
## あなたの節電・節約術は?

外出自粛やオンライン授業などが続く中、「おうち時間」が増えた。それに伴って、光熱費の出費も増えたという人も多いのではないかと。筑波大生が普段行っている節電・節約の工夫についてオンライン会議システムなどを利用して聞いた。(坂田利通||人文科学類1年、細井真生||同2年、西村大祐||同4年、山田優芽||比較文化学類2年、車谷都美||社会学類2年)

【社2年・男性】 目分(か)り、お金の管理も買い物をする際は、クレジットカードやQRコード決済など9種類の決済方法を使い分け、年間1〜2万円は無頓着だったが、近々車検で大きな出費があるので意識するようになった。料金は給与が振り込まれる口座と同一なので、入出金が

【社2年・女性】 器はオフにすることで待機電力を抑えている。【人文2年・男性】 親が負担してくれている。30分以内の外出の時はエアコンをつけたままにしてしまおうと思った。音さえ聞ければいいので、今は消費電力が少ないミュージックプレイヤーをつけて節電している。延長コードも切り替えスイッチのついていないものを選び、使わない機

【教育P前期2年・男性】 小さい頃から節電するよう言われていた。電気をこまめに消費習慣が身につけており、気づかないうちに電気の消費量が抑えられていることはあると思う。また、暑に強いので、夏は扇風機で過ごしており、35度を超えないとエアコンをつけず、苦痛なく結果的に節電できている。【資源2年・女性】 食費を1日300円に抑えている。ウェブでスーパーのチラシなどを見て、その時々なるべく安いものを買えるようにお店を使い分け、肉は月2回ある安売りの時にまとめて買っている。その日安く購入した食材に合わせて作る料理を決めているので、食材に余分な出費をしないように。外出する時は弁当を作り、外食は控えている。



イラスト=大橋翔和(比較文化学類1年)

## 同じ語でもアクセントに世代差

体専

**タイセン**

4拍からなる漢語略語のアクセントは声最後まで下がらない「平板型」が一般的

芸専

**ゲーセン**

声を最初の拍の直後で下げて発音しており、4拍からなる漢語略語では特異的(高く発音する拍の上に線を引いた)

世代差を反映?

最近の筑波大生

近年使われるアクセント

【解説】

東京五輪・パラリンピックが終わり、季節は芸術の秋を迎えた。スポーツも芸術も筑波大にとってなじみ深い世界である。それぞれに専門学群があるからだ。筑波大生は体育専門学群・芸術専門学群を「体専・芸専」と呼ぶ。長い単語を縮めて使うのは言語の世界ではよくあることだ。短縮することで頻りに耐えやすくなる。仲間の言葉として性格も強ま

【タイセン】

「タイセン」や「芸専」のよ

【ゲーセン】

「ゲーセン」がいつ頃から



たいせん【体専】(名)体育専門学群の略。▽体育・スポーツ学、コーチング学、健康体力学の三つの領域から成る。

げいせん【芸専】(名)芸術専門学群の略。▽芸術・デザイン分野の専門教育成

【タイセン・ゲーセン】

これらの略称を用いるのは、その人が筑波大関係者だということだ。少し気になるのはそのアクセントだ。筆者は30年ほど前に筑波大で学生生活を送ったが、その当時から自分の耳に馴染んでいるのは「タイセン・ゲーセン」の型(平板型)だ。しかし、近年の筑波大生の中には「タイセン・ゲーセン」として、前の世代とは別の世代に属していることが言葉の上で示されるとい



# 「科学のまち」象徴するメディアフェス

## 非接触で楽しめる作品も

「科学のまちつくば」の特色を生かし、科学技術と文化芸術を融合した作品を紹介する「つくばメディアアートフェスティバル2021」(つくば市主催)が7月30日から8月5日まで、茨城県つくば美術館(つくば市吾妻)で開かれた。



つくば市の景観の変遷が鮮やかに映し出された村上助教の「織りなす風景」= 本人提供

筑波大の工学・芸術連携リサーチユニットの教員やプロとして活躍する卒業生、学生ら12組が12作品を出展した。7月30、31日の両日は、プロジェクトも、来場者人気だったのが「非接触振動入力装置」だ。スマートフォンの画面を模した自販機大の装置で、事前に手指の動きを感知するセンサーが置かれている。体験者はセンサーの上に手をかざし、上部の画面に表示された文字を文字盤から選ぶ。特定の手の動きに応じて、文字盤が実際に飛び出し、開くことによってフリック入力されるが、操作はなかなか難しい。制作メンバーの佐藤紀乃香さん(令和2年度芸術専門

群卒)は「コロナ禍で非接触の需要が高まっている。非接触入力は時間がかかりすぎるが、その難しさをゲーム感覚で楽しめるようにした」と話す。プロジェクトは「3密」を避ける屋外イベントとして企画された。上映場所は、美術館前のつくば市中央公園。筑波大の村上助教(芸術系)の監修で、池のほとりに立つレストハウスの壁面に、村上助教や芸術専門群情報学学位プログラムの学生らが制作した4作品(計約40分)が映し出された。村上助教が制作した「織りなす風景」は、古代から現代に至るまでのつくば市の景観の変遷を表現した。古代の筑波山、奈良・平安時代の平沢官衙、つくば万博の開催、現在のつくば駅などが登場した。村上助教は「つくばの歴史に想いを託してもらえると嬉しい。屋外での上映

ということで、感染対策を取りながら作品鑑賞を楽しんでもらえる形を提案できたと思う」と語った。フェスティバルの開催は今年で5回目。感染防止対策として入場時に検温と消毒、連絡先の聞き取りが実施された。今後、つくば市のウェブサイトで展示作品や会場の様子を伝えるアーカイブ映像が公開される予定だ。大久保伊織(比較文化学類1年、北川瑠菜(同3年、12面に関連写真)



故岡崎名誉教授の「反転する表面-2012-」(右)など、履修生が選んだ展示作品 = 林准教授提供

群卒)の抽象絵画「浮遊2015.05.20」など芸術系が所蔵する400点以上のコレクションから選んだ4作品が展示された。今年で5回目。感染防止対策として入場時に検温と消毒、連絡先の聞き取りが実施された。今後、つくば市のウェブサイトで展示作品や会場の様子を伝えるアーカイブ映像が公開される予定だ。大久保伊織(比較文化学類1年、北川瑠菜(同3年、12面に関連写真)

# 歌と踊りの青春群像

物語は進路に迷う大学3年生、終の歌が始まる。沈んだ表情で周りを羨むように歌う終。希望に満ちた歌詞を明るく歌い上げる周囲の学生との対比が鮮やかだ。

「あなたと手紙のやり取りがしたい」。そんな終の元にある日、差し出し人不明の手紙が届く。友人の寿々人の勧めで文通が始まった。今回の公演はダブルキャスト制にし、チーム「Light」とチーム「Wing」がそれぞれ2公演を担当した。1度

に大人数が集まらないようにするために、チームごとに練習日を分け、感染対策を取りつつ連携を図ってきたという。「Wing」で終を演じた斎藤亮さん(知識3年)は「終は自分とは正反対の性格。セリフがない時でも、終が話すとしたらどんなセリフを言うか考えながら演じた」と振り返る。終は「文通の話題にもなる」と寿々人に誘われ、寿々人の友達の有佐とともにも花火を見に行くことになる。終の先輩、恵令

会にいたような感覚に陥る。「咲いて消えてゆくその姿は二度と見ることができないけど、記憶には刻まれてゆく」と歌う有佐の伸びやかな声。ライトの二つだ。赤や青な鮮やかな照明が次々に点灯され、リアルな花火の音が響く中、観客は自分も花火大

めて歌う練習をした。本番は有佐の気持ちになって歌えた」と語る。花火大会で撮影した写真を文通相手に褒められたことで、終は写真という夢中になれるものを見つけた。そして文通の相手があること、寿々人が終を元気づけようと有佐に頼んで始められたことが明かされる。「坂道上がったその先には、みんなが見た空と四つ葉の道が続く」最後の場面では、4人それぞれが自分の夢に向かって前向きに歩いていく決意が、明るいメロディーに乗せて歌い上げられた。観客も登場人物

で行っているという。今年度のテーマ「変身」は打越結衣さん(芸専4年)が中心となり立案した。今さんの「浮遊」を授業で目にしたことがきっかけだ。「変身」だと解釈し、展示することに決めた。展示班リーダーの櫻村宙子さん(芸専4年)は「作者の意図とは違ふ、思わぬ見方を鑑賞者にしてもらうことも、この展覧会の狙いだ。作品の裏に隠された作者の意図を想像しながら楽しんでほしい」と話した。(三橋美音(教育学類2年)

筑波大ミュージカル集団ESSASSAの春公演「Letters」が8月8、9日の両日、5棟で上演された。有観客は2年ぶり。新型コロナ対策のため、観客を筑波大関係者に限定し、事前予約制にしたが、全4回の公演は満席になる回も出る大盛況だった。「俺は(七)へ行くべきか。(七)へ行くのか」

物語は進路に迷う大学3年生、終の歌が始まる。沈んだ表情で周りを羨むように歌う終。希望に満ちた歌詞を明るく歌い上げる周囲の学生との対比が鮮やかだ。

「あなたと手紙のやり取りがしたい」。そんな終の元にある日、差し出し人不明の手紙が届く。友人の寿々人の勧めで文通が始まった。今回の公演はダブルキャスト制にし、チーム「Light」とチーム「Wing」がそれぞれ2公演を担当した。1度

に大人数が集まらないようにするために、チームごとに練習日を分け、感染対策を取りつつ連携を図ってきたという。「Wing」で終を演じた斎藤亮さん(知識3年)は「終は自分とは正反対の性格。セリフがない時でも、終が話すとしたらどんなセリフを言うか考えながら演じた」と振り返る。終は「文通の話題にもなる」と寿々人に誘われ、寿々人の友達の有佐とともにも花火を見に行くことになる。終の先輩、恵令

会にいたような感覚に陥る。「咲いて消えてゆくその姿は二度と見ることができないけど、記憶には刻まれてゆく」と歌う有佐の伸びやかな声。ライトの二つだ。赤や青な鮮やかな照明が次々に点灯され、リアルな花火の音が響く中、観客は自分も花火大

めて歌う練習をした。本番は有佐の気持ちになって歌えた」と語る。花火大会で撮影した写真を文通相手に褒められたことで、終は写真という夢中になれるものを見つけた。そして文通の相手があること、寿々人が終を元気づけようと有佐に頼んで始められたことが明かされる。「坂道上がったその先には、みんなが見た空と四つ葉の道が続く」最後の場面では、4人それぞれが自分の夢に向かって前向きに歩いていく決意が、明るいメロディーに乗せて歌い上げられた。観客も登場人物

で行っているという。今年度のテーマ「変身」は打越結衣さん(芸専4年)が中心となり立案した。今さんの「浮遊」を授業で目にしたことがきっかけだ。「変身」だと解釈し、展示することに決めた。展示班リーダーの櫻村宙子さん(芸専4年)は「作者の意図とは違ふ、思わぬ見方を鑑賞者にしてもらうことも、この展覧会の狙いだ。作品の裏に隠された作者の意図を想像しながら楽しんでほしい」と話した。(三橋美音(教育学類2年)



大久保伊織(比較文化学類1年、北川瑠菜(同3年、12面に関連写真)

群卒)の抽象絵画「浮遊2015.05.20」など芸術系が所蔵する400点以上のコレクションから選んだ4作品が展示された。今年で5回目。感染防止対策として入場時に検温と消毒、連絡先の聞き取りが実施された。今後、つくば市のウェブサイトで展示作品や会場の様子を伝えるアーカイブ映像が公開される予定だ。大久保伊織(比較文化学類1年、北川瑠菜(同3年、12面に関連写真)

会にいたような感覚に陥る。「咲いて消えてゆくその姿は二度と見ることができないけど、記憶には刻まれてゆく」と歌う有佐の伸びやかな声。ライトの二つだ。赤や青な鮮やかな照明が次々に点灯され、リアルな花火の音が響く中、観客は自分も花火大

めて歌う練習をした。本番は有佐の気持ちになって歌えた」と語る。花火大会で撮影した写真を文通相手に褒められたことで、終は写真という夢中になれるものを見つけた。そして文通の相手があること、寿々人が終を元気づけようと有佐に頼んで始められたことが明かされる。「坂道上がったその先には、みんなが見た空と四つ葉の道が続く」最後の場面では、4人それぞれが自分の夢に向かって前向きに歩いていく決意が、明るいメロディーに乗せて歌い上げられた。観客も登場人物

で行っているという。今年度のテーマ「変身」は打越結衣さん(芸専4年)が中心となり立案した。今さんの「浮遊」を授業で目にしたことがきっかけだ。「変身」だと解釈し、展示することに決めた。展示班リーダーの櫻村宙子さん(芸専4年)は「作者の意図とは違ふ、思わぬ見方を鑑賞者にしてもらうことも、この展覧会の狙いだ。作品の裏に隠された作者の意図を想像しながら楽しんでほしい」と話した。(三橋美音(教育学類2年)



渡部宏樹 助教 (映画・メディア学) 人文社会学系 助教。南カリフォルニア大学映画芸術研究科博士課程修了。Ph. D. (Cinema and Media Studies)。2018年より現職。エシフト日本科学技術大客員助教も兼任。

「シヨウほど素敵な商売はない」とは金が儲かるボロい仕事という意味ではない。ステージがそうであるように、光と影の間で生きることができるといつかだ。「シヨウ・ポト」の「オールマン・リバー」は黒人の悲哀を、「ウェストサイド物語」の「アメリカ」はアフリカ系移民の苦難をエンターテインメントの中に滑り込ませたが、「オール・ザット・ジャズ」は死をエンターテインメントで包装してみせることで、アメリカン・ミュージカルの明るい驕りを正しく継承している。

### 私の一本

1930年代に華美で絢爛なミュージカル映画が多数制作されたのは、世界恐慌で経済的に苦しむアメリカ人が現実の苦しさを感じて忘れることができる娯楽を求めたからだと言われている。この芸術形式は21世紀の今では、マイノリティーの声を代弁し社会の多様性を言及する作品に多用されている。一般的なミュージカル映画の底抜けの明るさと対比してみると、死を受け入れる過程を本筋に据えた「オール・ザット・ジャズ」(1979

年は例外的に見るが、アンチ・ミュージカル映画とも呼ぶべき手法によって本作はミュージカルの明るさの中の驕りを浮かび上がらせる。主人公であるブロードウェイの演出家ジョー・ギデオンは、「シカゴ」などの振付師を務めたボブ・フォッシー監督の半自伝的キャラクターである。ジョーは優れた演出家だが、私生活では問題を抱え過労とドラッグで倒れた末に、死の天使との対話の中で自身の半生を振り返る。自分が死ぬことを受け入れたジョーは幻想の中で、彼の人生

の世は舞台、人はみな役者」と言う代わりに、フォッシーはこの世はシヨウビズ、人はみなエンターティナー」と謳って、死の直前まで明るくパフォーマンスをするのだ。 「シヨウほど素敵な商売はない」とは金が儲かるボロい仕事という意味ではない。ステージがそうであるように、光と影の間で生きることができるといつかだ。「シヨウ・ポト」の「オールマン・リバー」は黒人の悲哀を、「ウェストサイド物語」の「アメリカ」はアフリカ系移民の苦難をエンターテインメントの中に滑り込ませたが、「オール・ザット・ジャズ」は死をエンターテインメントで包装してみせることで、アメリカン・ミュージカルの明るい驕りを正しく継承している。

# 短歌 筑波大

長雨の雫をふくみ花すこし落として 秋を待つ 百日紅

8月28日、つくば市天久保

夏から秋にかけて、平砂学生宿舎の前に百日紅が咲く。木いっばいに湧き立つような花を遠くから眺めても、ひらひらと離れた花びらを近くで見ても美しい。猿でも滑り落ちるほど樹皮が滑らかなことから「さるすべり」と呼ばれるが、漢字では「百日紅」と表記するのが一般的なようだ。字の通り長い期間咲き続けるが、夏の終わりの長雨に耐えかねて地面に落ちていく花もあり、秋の気配を感じた。(廣間菜月(比較文化学類3年、写真も)





# 筑波大教員と筑波大生に聞く 東京五輪・パラ開催の価値とは



オンライン取材に応じる山口教授

最も大きいのは「五輪」というテーマを問いかけたことだ。例えば、これまで「五輪を開催するに大金がかかって当たり前」

「コロナ下で、世界のトップアスリートたちが集った東京五輪・パラリンピック。無観客の会場が繰り広げられ、五輪史上初のトランスジェンダー女性の出場など新しい風も吹き込まれた。その一方で、新型コロナウイルスの感染拡大も指摘され、持続可能性に反する正当な懸念問題などの課題も浮かんできた。今大会から発せられたメッセージを、私たちはどう受け止め、どう生かしていけばよいのか。各分野で研究を進める筑波大教員らに取材し、今大会を振り返った。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」



秋山肇助教

大会では、選手と国との関係の危うさや国際政治に

「大会では、選手と国との関係の危うさや国際政治に潜む緊張も感じられた。五輪の陸上女子ベラルーシ代表、クリスティーナ・ツィマノフスカ選手は期間中にポーランドに亡命した。自身のSNS(ネット交流サービス)の書き込

「秋山肇助教(人社系)は「国の資金的な支援を受け

「無観客の大会開催は、選手にとってメリット・デメリットの両面があった。良い面としては選

「無観客選手に影響も。大会開催に対する感謝の気持ちや、他者から見られていると感

「自国開催となった大会では、テレビやインターネットで、これまでになく多くの試合の映像が流され

## 国家の影ちらつく

「大会では、選手と国との関係の危うさや国際政治に潜む緊張も感じられた。五輪の陸上女子ベラルーシ代表、クリスティーナ・ツィマノフスカ選手は期間中にポーランドに亡命した。自身のSNS(ネット交流サービス)の書き込

「大会では、選手と国との関係の危うさや国際政治に潜む緊張も感じられた。五輪の陸上女子ベラルーシ代表、クリスティーナ・ツィマノフスカ選手は期間中にポーランドに亡命した。自身のSNS(ネット交流サービス)の書き込

「大会では、選手と国との関係の危うさや国際政治に潜む緊張も感じられた。五輪の陸上女子ベラルーシ代表、クリスティーナ・ツィマノフスカ選手は期間中にポーランドに亡命した。自身のSNS(ネット交流サービス)の書き込

「大会では、選手と国との関係の危うさや国際政治に潜む緊張も感じられた。五輪の陸上女子ベラルーシ代表、クリスティーナ・ツィマノフスカ選手は期間中にポーランドに亡命した。自身のSNS(ネット交流サービス)の書き込

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

## 社会全体の課題浮かぶ

「1988年ソウル五輪の柔道女子52kg級銅メダリストで、日本オリンピック委員会(JOC)の理事を今年6月まで10年間務めた山口香教授(体育系)に、五輪・パラ開催の意義について聞いた。」

「1988年ソウル五輪の柔道女子52kg級銅メダリストで、日本オリンピック委員会(JOC)の理事を今年6月まで10年間務めた山口香教授(体育系)に、五輪・パラ開催の意義について聞いた。」

「1988年ソウル五輪の柔道女子52kg級銅メダリストで、日本オリンピック委員会(JOC)の理事を今年6月まで10年間務めた山口香教授(体育系)に、五輪・パラ開催の意義について聞いた。」

「1988年ソウル五輪の柔道女子52kg級銅メダリストで、日本オリンピック委員会(JOC)の理事を今年6月まで10年間務めた山口香教授(体育系)に、五輪・パラ開催の意義について聞いた。」

「1988年ソウル五輪の柔道女子52kg級銅メダリストで、日本オリンピック委員会(JOC)の理事を今年6月まで10年間務めた山口香教授(体育系)に、五輪・パラ開催の意義について聞いた。」

「1988年ソウル五輪の柔道女子52kg級銅メダリストで、日本オリンピック委員会(JOC)の理事を今年6月まで10年間務めた山口香教授(体育系)に、五輪・パラ開催の意義について聞いた。」

「1988年ソウル五輪の柔道女子52kg級銅メダリストで、日本オリンピック委員会(JOC)の理事を今年6月まで10年間務めた山口香教授(体育系)に、五輪・パラ開催の意義について聞いた。」

「1988年ソウル五輪の柔道女子52kg級銅メダリストで、日本オリンピック委員会(JOC)の理事を今年6月まで10年間務めた山口香教授(体育系)に、五輪・パラ開催の意義について聞いた。」

「1988年ソウル五輪の柔道女子52kg級銅メダリストで、日本オリンピック委員会(JOC)の理事を今年6月まで10年間務めた山口香教授(体育系)に、五輪・パラ開催の意義について聞いた。」

「1988年ソウル五輪の柔道女子52kg級銅メダリストで、日本オリンピック委員会(JOC)の理事を今年6月まで10年間務めた山口香教授(体育系)に、五輪・パラ開催の意義について聞いた。」

「1988年ソウル五輪の柔道女子52kg級銅メダリストで、日本オリンピック委員会(JOC)の理事を今年6月まで10年間務めた山口香教授(体育系)に、五輪・パラ開催の意義について聞いた。」

「1988年ソウル五輪の柔道女子52kg級銅メダリストで、日本オリンピック委員会(JOC)の理事を今年6月まで10年間務めた山口香教授(体育系)に、五輪・パラ開催の意義について聞いた。」

「1988年ソウル五輪の柔道女子52kg級銅メダリストで、日本オリンピック委員会(JOC)の理事を今年6月まで10年間務めた山口香教授(体育系)に、五輪・パラ開催の意義について聞いた。」

「1988年ソウル五輪の柔道女子52kg級銅メダリストで、日本オリンピック委員会(JOC)の理事を今年6月まで10年間務めた山口香教授(体育系)に、五輪・パラ開催の意義について聞いた。」

「1988年ソウル五輪の柔道女子52kg級銅メダリストで、日本オリンピック委員会(JOC)の理事を今年6月まで10年間務めた山口香教授(体育系)に、五輪・パラ開催の意義について聞いた。」

「1988年ソウル五輪の柔道女子52kg級銅メダリストで、日本オリンピック委員会(JOC)の理事を今年6月まで10年間務めた山口香教授(体育系)に、五輪・パラ開催の意義について聞いた。」



原田隆之教授

## 「楽観バイアス」で感染拡大も

「楽観バイアス」で感染拡大も。原田隆之教授は、楽観バイアス(楽観バイアス)が、感染拡大の一因として挙げられる。楽観バイアスとは、現実よりも楽観的に物事を捉える傾向を指す。原田教授は、心理学や行動科学の知見を生かした「ナッジ」を活用すべきだという。



土井裕人助教

## 性的少数者の可視化に意義

性的少数者の可視化に意義。土井裕人助教は、性的少数者の存在が五輪・パラという大イベントで可視化されたことは大きな意味があるとした上で、「アスリートにとって、自分の性自認や性的指向を周囲に隠すことはストレスになり、パフォーマンスに悪影響をもたらす」とも聞く。そうした理由から、カミングアウトを促すことが重要だ」と話している。

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」

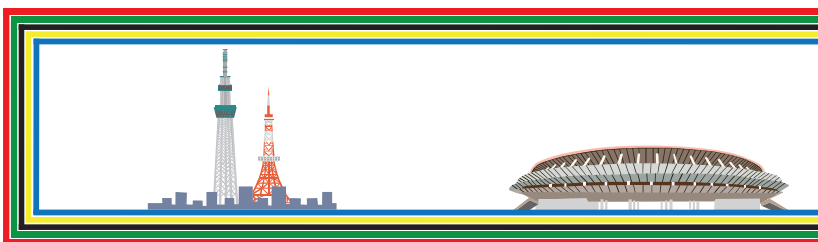
## パラスポーツの普及で

### 共生社会の実現を

共生社会の実現を。パラスポーツの普及で、共生社会への理解を深めることが大切だ。今後は、人々にパラスポーツを身近に感じてもらう工夫がいる。パドミントンと車いすパドミントンの大会を統

「大会開催の意義は何か。競技だけではなく、「文化プログラム」としてスポーツや国際交流に関するシンポジウムの場を設けることで、市民が未来を考えたことができる特別な機会となったか。」





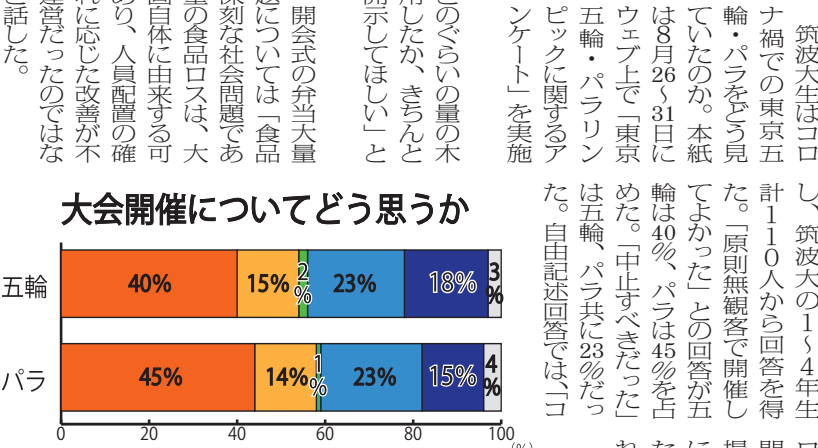
### 大会の持続可能性に課題残す



立花敏准教授

東京大会は2015年に採択された国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」の実現を掲げた。五輪を巡っては、資源の浪費などの批判がかねて指摘され、IOCも1996年、五輪憲章に持続可能性の尊重を盛り込んでいた。

### 筑波大生 開催に賛否



筑波大生はコロナ禍での東京五輪・パラをどう見たのか。本紙は8月26〜31日にウェブ上で「東京五輪・パラリンピックに関するアンケート」を実施した。自由記述回答では、「コロナ禍で開催することに疑問を感じていた」「身近な場所で開催されていることに、非常にワクワクしていた」など賛否両論が寄せられた。

代表選手団が事前合宿を行い、そのサポート役となった学生がいた。他にもボランティアに参加したり、テレビ観戦を決め込んだりと、五輪・パラとさまざまな関わりをした学生の話を聞いた。

初めて外国選手を応援 筑波大で事前合宿を行った五輪のスイス選手団をサポートした。陸上男子1万5000mに出場したジュリアン・ワンター選手が大学1年生で、大会期間中は構内を走る際に自転車で行き、押しボタン式の信号を先回りして押すなど、スムーズに走れるようにした。本番のレースで21位に終わり、ジュリアン選手が悔しそうな表情をしていたことが印象に残っている。

迷いながらもボランティアとして参加 大会運営ボランティアとして、カヌーの表彰式の運営に携わった。五輪開催への風当たりが強い中、ボランティア活動に参加するかどうか直前まで悩んだ。会場にはコロナ選手をサポートする人やメディアも多く、にぎやかだったが、50歳で2位から逆転した姿を見て感動した。選手たち二度と得られない経験があった。 (人文4年・男性)

大会見て一転、開催してよかった 海外選手やその関係者の移動に伴う感染拡大を懸念していた。再延期は選手への心理的・肉体的負担もあって、中止すべきだと考えていた。だが、水泳女子200m個人メドレー決勝で、大橋悠依選手が最後の50mで2位から逆転した姿を見て感動した。選手たちを見て感動した。選手たちの努力が報われる場があった。 (教育4年・男性)

中止にすべきだった 緊急事態宣言が発令され、多くのイベントが自粛されていた。五輪開催は、多くの人が自粛していた。五輪開催は、多くの人が自粛していた。五輪開催は、多くの人が自粛していた。 (生物2年・男性)

## Hello! 先端研究



道喜将太郎助教

全世界で2500万人がうつ病を患っていると言われる。政府は2015年、50人以上の労働者を使用する事業場にストレスチェックの実施を義務付けた。定期的に労働者一人一人のストレス状況を調べて結果を本人に通知すると共に、集団ごとに分析し、職場環境の改善に結び付けることを求めている。

だが、道喜将太郎助教(医学医療系)は「うつと診断されるキャリア」

全世界で2500万人がうつ病を患っていると言われる。政府は2015年、50人以上の労働者を使用する事業場にストレスチェックの実施を義務付けた。定期的に労働者一人一人のストレス状況を調べて結果を本人に通知すると共に、集団ごとに分析し、職場環境の改善に結び付けることを求めている。

だが、道喜将太郎助教(医学医療系)は「うつと診断されるキャリア」

だが、道喜将太郎助教(医学医療系)は「うつと診断されるキャリア」

だが、道喜将太郎助教(医学医療系)は「うつと診断されるキャリア」

だが、道喜将太郎助教(医学医療系)は「うつと診断されるキャリア」

だが、道喜将太郎助教(医学医療系)は「うつと診断されるキャリア」

だが、道喜将太郎助教(医学医療系)は「うつと診断されるキャリア」

だが、道喜将太郎助教(医学医療系)は「うつと診断されるキャリア」

だが、道喜将太郎助教(医学医療系)は「うつと診断されるキャリア」

「Hello! 先端研究」

「Hello! 先端研究」

「Hello! 先端研究」

「Hello! 先端研究」

「Hello! 先端研究」

「Hello! 先端研究」

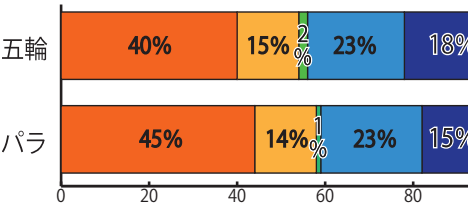
「Hello! 先端研究」

「Hello! 先端研究」

「Hello! 先端研究」

「Hello! 先端研究」

### 大会開催についてどう思うか



筑波大ではスイスの五輪

初めて外国選手を応援

迷いながらもボランティアとして参加

大会見て一転、開催してよかった

中止にすべきだった

緊急事態宣言が発令され、多くのイベントが自粛されていた。

## 客観情報でうつ状態を判定

## AIが精神医学を支える未来へ

客観情報でうつ状態を判定

客観情報でうつ状態を判定

客観情報でうつ状態を判定

客観情報でうつ状態を判定

客観情報でうつ状態を判定

客観情報でうつ状態を判定

客観情報でうつ状態を判定

客観情報でうつ状態を判定

客観情報でうつ状態を判定

客観情報でうつ状態を判定

客観情報でうつ状態を判定

客観情報でうつ状態を判定

客観情報でうつ状態を判定

客観情報でうつ状態を判定

客観情報でうつ状態を判定

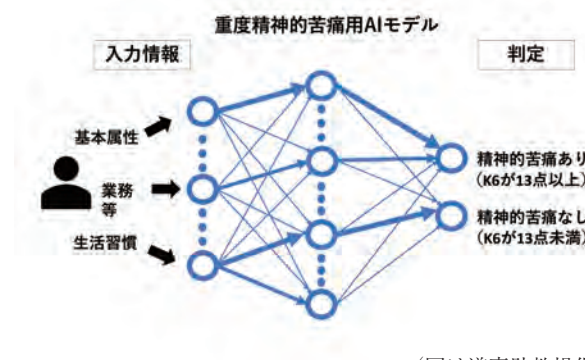
客観情報でうつ状態を判定

客観情報でうつ状態を判定

客観情報でうつ状態を判定

客観情報でうつ状態を判定

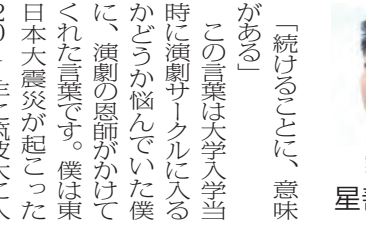
客観情報でうつ状態を判定



(図は道喜助教提供)

## 信念があれば大丈夫

信念があれば大丈夫



舞台俳優 星善之さん

「続けることに、意味がある」

「続けることに、意味がある」



手紙

手紙

手紙



# 東京2020の舞台上で躍動 筑波大生2人がメダリストに



写真:西村尚己/アフロスポーツ

守備の要「センター」として堅実な守りを見せる高橋

## 高橋 初出場 で銅

## 準決勝敗戦バネにメダル獲得

**ゴールボール**  
パラリンピックの女子ゴールボールが8月25日、9月3日に幕張メッセ(千葉県美浜区)で行われ、日本代表は銅メダルを獲得した。初出場の高橋利恵子(障害P2年)は3試合に先発出場し、守備の要としてメダル獲得に貢献した。

ゴールボールは、目隠しをしたプレーヤーが鈴入りのボールを転がして相手のゴールを狙い、得点を競う。予選リーグ初戦は8月25日のトルコ戦。リオデジャネイロ大会金メダルの強豪に1-7で大敗した。高橋は「初出場で緊張してしま

い、実力を発揮できなかった」と振り返る。だが、その後立て直し、2勝1分け1敗のグループ3位で決勝トーナメント進出を決めた。

同トーナメント初戦のイタリヤ戦に4-1で勝利し準決勝に進むと、再びトルコと対戦。初戦の敗戦の反省から、守備位置を下げ、ボールを止めやすくする作戦を取ったが、5-8で敗れた。

高橋は「金メダルを目指していたため、悔しい敗戦だったが、市川喬一監督に『メダリストがいかか、パラリンピアンがいかか』と言われ、メダル獲得に向け

てメンバーが気持ちを共有できた」と振り返る。銅メダルのかかった3位決定戦の相手はブラジル。高橋は先発出場し、守備で活躍。後半残り2分49秒で途中交代するまで無失点に抑え、チームは6-1で勝利。日本代表は金メダルを獲得したロンドン大会以来、2大会ぶりのメダル獲得となった。

高橋は「初めはとても緊張したが、最高の舞台で楽しんでプレーしよう」と切り替えられた。メダル獲得をきっかけに、より多くの人にゴールボールを知ってもらいたい」と話した。(大和祐彦)

## 梶原 悔しさ残る銀



写真:望月秀太郎/アフロ

日本人女性初のメダルとなったが、パリ五輪での更なる活躍を誓った梶原

## 「観客の声援力に」

伊豆市)で行われた自転車競技女子オムニウムで、梶原悠未(体育P2年)が銀メダルを獲得した。五輪の自転車競技で日本の女子選手がメダル獲得は初めて。

梶原は2020年の世界選手権(ドイツ・ベルリン)の王者として金メダルを指すレースとなった。

オムニウムは1日に4種目を行い、各種目で獲得した合計ポイントで争う。1種目の「スクラッチ」を2位でゴールし、38点を獲得する好調な滑り出しを見せると、2種目の「テンポ」では5位、3種目の「エリミネーション」では2位となり、それぞれ32点、38点を獲得した。この時点で合計108点となり、1位と2点差の2位につけた。

最終種目の「ポイントレース」は、250回転トラックを80周(20分)、10周ごとに通過順に応じたポイントが与えられる。梶原は残り9周時点で落車したものの、落ちていてレースに復帰し、2点を獲得。合計110点で1位と14点差の2位で競技を終えた。

梶原は「持っている力を出し切って銀メダルを獲得できたが、金メダルを目指していたので悔しい。(伊豆ペドロロームは有観客での開催で)観客の拍手がレース中も聞こえ、力になった。自転車を、これからも日本の女子がメダルを取り続ける競技にするために、パリ五輪では金メダルの獲得を目指し、自分自身が道を走ってみたい」と話した。(大和祐彦)

## 榎本 シンクロで5位

## 「互いに信頼しあえた」

### 水泳競技



板飛び込みで演技する榎本=本人提供

7月25日に東京アクアティクスセンター(東京都江東区)で行われた五輪の女子シンクロ板飛び込みで、榎本遼香(体育2年)が宮本葉月(近畿大)とペアを組み、5位入賞を果たした。同調性ある演技を続けたが、5本目で入水が乱れ、メダルは逃した。

女子板飛び込みにも出場し、準決勝まで進んだ。榎本は「もっとできたという悔しさも残るが、今後につながる大きな試合だった」と振り返る。

榎本と宮本が東京五輪に向け、ペアを組み練習を始めたのは2018年秋。

榎本は栃木県、宮本は大阪府が拠点のため、毎月の代表合宿でシンクロ演技の練習を重ねた。新型コロナの影響で、一時期練習ができていない期間も8カ月あった。だが、「練習や大会を経て互いに信頼し合えるペアに成長していった」という。

「今まで国内大会優勝や、世界大会出場経験はあったが、練習や大会を経て互いに信頼し合えるペアに成長していった」と話した。

榎本は今後について、「オリンピックという肩書きを持つことになる。プレッシャーもあるが、それを乗り越えてもっと良い演技をしていきたい」と意気込むとともに、来年の5月に開かれる世界水泳を見据えている。「今回戦った選手も出場すると思うので、リベンジの意味も込め、しっかりと代表権を勝ち取って出場したい」と語った。(中山友香)

## パラカヌー 一つ順位上げ7位 瀬立 2大会連続入賞

### カヌー

9月2〜4日に海の森水上競技場(東京都江東区)で開かれたパラリンピック

のカヌー女子カヤックシングル200m(運動機能障害K1L)で瀬立モニカ(体育4年)が7位となり、リオ大会に続き連続入賞した。会場の江東区は瀬立が生まれ育った地元。目標のメダル獲得はならなかったが、決勝では準決勝のタイムを大幅に短縮するなど、リオからの5年間の成長を地元の人々にも印象付けた。

瀬立は高校1年時のけがで「体幹機能障害」を負った。パラカヌーを始めたのはその翌年の2014年。16年のリオ大会でいきなり8位入賞を果たし、大会後「東京大会での表彰台を目標に掲げていた。」

2組に分かれて戦い、各組1着だけが決勝進出する2日の予選で4着となり、4日の準決勝に回った。

準決勝も2組に分かれて行われ、各組3着以内で決勝進出となる。第1レース

## 筑波大と五輪の関わり 多くの選手輩出

筑波大は、前身の東京高等師範学校の時代から、五輪とは深い関わりがある。同校の校長を務めた嘉納治五郎は1909年、アジアでは初めて国際オリンピック委員会(IIOC)の委員に就任した。スポーツ人類学を専門とする真田久特命教授は「日本の五輪ムーブメントは嘉納から始まった。多くの筑波大関係者が運営面でも大会を支えた。五輪ムーブメントに筑波大が深く関わってきたから、誇らしい」と話した。(北川瑠華)

計48人。五輪は27人(在学生5人、卒業・修了生22人)、パラは21人(在学生2人、卒業・修了生4人、附属学校などの在校生・卒業生15人)の他、尾藤賢教授(体育系)が東京五輪の日本選手団総監督を務めるなど、役員・コーチや医療従事者としても筑波大関係者は大会に貢献した。



# 弓道 インカレ 女子 25年ぶり優勝

第69回全日本学生弓道選手権(インカレ)の団体戦が8月11、12日に日本カインホール(名古屋市南区)で開催され、女子が25年ぶり4回目の優勝を果たした。男子は準優勝だった。

## 弓道

男子は5人、女子は3人がそれぞれ4射ずつを引き、合計的中数を争う。

8月12日に行われた女子団体は、2、3回戦で全員が4射全中を的中させる皆中を達成。帝京大を12中対8中、明治大を12中対7中以下するなど順調に勝ち上がった。準決勝の慶應義塾大戦では、高田実怜(体専3年)が皆中し、10中対9中で際どい勝利を収めた。決勝は四国大との対戦となった。高田と今井南(同1年)が皆中し、11中対8中で優勝を決めた。



全国選抜に引き続き、インカレを制した筑波大女子=弓道部提供

8月11日に行われた男子団体では、3回戦で慶應義塾の菊地凛(同4年)中(三番手)の坂本規模(資源4年)が皆中し、17中対16中で競り勝った。準決勝の明治大戦は16中対12中で快勝した。

決勝の相手は専修大。両者17中で並び、両チームの選手が1射ずつを引き、的中数の多い方が勝利となる「同中競射」にもつれ込んだ。1射目は同点で2射目に突入。筑波大は3中にとどまり、全員が的中させた専修大の勝利となった。主将の小坂麻露(体専3年)は、「大会を通し、誰かが外しても次の人が当てるのができていた。準優勝だったが、今後につなげる大会になった」と話した。

優勝した女子は、11月22、23日に伊勢神宮(三重県伊勢市)で開催される第45回全日本学生弓道女子主座決定戦への出場が決まった。第2セットも接戦となった。

## テニス

全日本学生テニス選手権(インカレ)が8月12、24日に四日市アニスセンター(三重県四日市市)で開催された。女子シングルスで阿部安美(体専3年)がベスト4入りした。また、ダブルスでは男子で田形諒平(同4年)と中村元(同1年)ペアが、女子では阿部と西尾萌々子(同1年)ペアがそれぞれベスト4に入った。

## インカレ

### 阿部 女子単と複でベスト4

#### 「攻撃力を上げていきたい」

なったが、7-5で取り返した。第3セットは阿部が5-2とリードしたが、その後盛り返されて再びタイブレークへ。今田の勢いを止められず、6-7で奪われ決勝進出を逃した。男子ダブルスの田形・中村ペアは準決勝で河野甲斐・田口涼太郎ペア(近畿大)と対戦した。第1セットを1-6で落とし、第2セットも中村ペアは、第2セットでネットに出る積極的なプレーを見せた。しかし、相手にサイドライン一杯のリターンを決められるなどして4-6で落とし、2セット連敗されて敗れた。女子ダブルスでは阿部・西尾ペアが準決勝で永田杏里・平田歩(慶應義塾大)と対戦。第1セットは3-6で奪われたものの、第2

セットは西尾がボレーを決めるなどポイントを重ね、6-2で奪い返した。10ポイント先取制の第3セットは接戦となったが、8-10となり、敗れた。阿部は「昨年度の大会でシングルス、ダブルスともに優勝したことがプレッシャーになり、思い切ったプレーができなかった。ベスト4という結果はうれしいが、他の選手の成長も感じ、焦りもある。攻撃力を上げたい」と語った。(山田優芽)

## 棒高跳古澤 初出場で優勝

### 女子 4年連続の総合優勝逃す

## 陸上

大学日本一を決める日本学生対校選手権(日本インカレ)が9月17、19日に熊谷スポーツ文化公園(埼玉県熊谷市)で行われた。初出場の古澤(生体専1年)は、初の優勝を飾った。しかし、



棒高跳で初優勝した古澤=陸上競技部提供

## 日本インカレ

対校戦で女子は総合6位、男子は同10位となり、女子は4年連続の総合優勝を逃した。筑波大は男女合計12種目12人が入賞した。男子棒高跳では、同種目の高校記録を持つ古澤が5.40mの記録で優勝した。5月の関東インカレでは5.52mの3位だったものの、8月20日には筑波大新記録となる5.52mをマークし、調子を上げていた。

古澤は「今シーズン前半は腰のけがで満足のいく結果が出せなかった。その中で、大学初タイトルを獲得でき、とてもうれしい。日本インカレでは4連覇を目指したい」と話した。

男子は3000m障害で松村匡悟(同3年)が3位入賞するなど、5種目6人が入賞を果たした。女子は、走幅跳の高良が6.33で優勝。関東インカレでは3連覇中だが、日本インカレではおとしが2位、昨年は4位に終わっていた。今大会の優勝で、全日本中学校陸上競技選手権(2015年)、全国高等学校総合体育大会(16、18年)、日本選手権(17、18年)、日本選手権(17、18年)と、中学から全ての年代で日本一に輝いた。

高良は「初優勝でき、素直にうれしい。今回の優勝をきっかけに、初めて日本一になった中学3年生の頃

## 高良は2種目で表彰台

高良は「初優勝でき、素直にうれしい。今回の優勝をきっかけに、初めて日本一になった中学3年生の頃

## スポーツの顔

### 弓道

今年度は体育会弓道部女子の活躍が目覚ましい。

6月の全国大学選抜大会で団体初優勝し、8月の全日本学生選手権(インカレ)も25年ぶり4回目の団体優勝を果たした。主要メンバーとして、この二つの団体日本一に貢献した期待の1年生だ。

地元・前橋市の前橋商業高校に入学後に弓道を始めた。中学までバスケットをしていたが、目立つ実績は残せなかった。「どうせやるなら全国を目指したい」と、高校で競技を始めて全国大会に出場した先輩がいる弓道部に入ったという。



団体戦で全国大学選抜、インカレ制覇

## 今井南 (体専1年)

は、全国高校総体の県代表を決める団体戦の予選と決勝で、最初に矢を射る大前に起用された。大きかけがほしい」と考

たせず、悔しかった。「もっこんな思いはしたくない。何か変わる動作ができなかった。そ

「弓道でお世話になっている人に結果を残すことで恩返しをしたい」と謙虚な姿勢も忘れずに。今の目標は、11月に開催される全日本学生弓道女子主座決定戦での団体戦優勝だ。実現すれば、大学の主要3大会を1年で制覇する偉業となる。(山田優芽)比較化学類2年、写真も)

## 「負けたくない」

「負けたくない」と語った。

「弓道は自分の外をさなければいけない。全て自分の責任になる。パスケと違い、練習も自分のペースでできる。それが合っていたのかもしれない」と振り返る。高校2年時の6月に

前は的中率の高さが求められる。一射目を的中させるかどうかで、チームの勢いも違ってくるから。予選は1位通過したが決勝リーグは不調で、チームは高校総体出場を逃した。大前の責任を果

「引道による推薦入試で入学したのは、同期入部の1年生女子の中で自分しかいない。同期を引く張る立場にならなくては」と意識するようになった。



# 大学説明会 今年もオンライン ライブ配信の活用拡大

コロナ禍のため、毎夏恒例の筑波大学説明会は昨年に続き今年もオンライン開催された。昨年は事前収録した動画の公開が主だったが、今年には在学生や教員と受験生らがリアルタイムで交流する「LIVE配信企画」を総合学域群と19学類・専門学群が8月21、22、28、29日の4日間にわたって実施し、全国の高校生約3000人が参加した。この他、各学類・専門学群の授業や研究、キャンパスライフなどを紹介するオンデマンド動画52本も公開された。

(及川千翔)人文学類2年、太田碧(第2類)1年、北川瑠菜

入試課は7月26日にウェブページ「受験生のための筑波大学説明会」を開き、8月6日までに各学類・専門学群が発信する37本の動画が出そろった。また、課外活動団体や学生宿舎などキャンパスライフや障害学生支援に関する紹介動画15本も公開した。

LIVE配信企画では、各学類・専門学群はそれぞれ個別相談会や学類説明会

「LIVE配信企画」は、人文学類の動画を視聴した茨城県筑西市の高校生は「キャンパス内の雰囲気を感じられなかったが、自分のほし情報だけを視聴できた。コンテンツも充実していて、満足できた」と話した。

例年、説明会にあわせて行われてきた進学相談は現在、オンライン会議システム「Zoom」で実施して

毎月第2・第4土曜日を基本に、アドミッションセンターの教員が事前予約制で対応している。

なお、同センターでは、大学の理念やカリキュラムの特徴を紹介する「大学概要説明」のライブ配信を11月6日に実施する。

**日本語・日本文化学類**  
日本語・日本文化学類は

8月29日に、学類生による学類紹介と教員による個別相談会をZoomで実施した。学類紹介には30人、個別相談には11人の高校生が参加した。

また、学類紹介の動画に加え、茶道の実習室や音響室など同学類生が主に使用する施設を紹介する動画「日施設ツアー」も公開した。元々は今年の1年生向けに制作したものだが「学内を移動する際の参考になった」などの声が寄せられた。制作を担当した張山紗彩さん(日語3年)は「施設の良さが伝わるように、何をどのよう映すか、構図を工夫した。役に立ったと言ってもらえたら嬉しい」



オンラインで学類の魅力や大学生活について高校生に説明する日本語・日本文化学類生=同学類提供

「ずっと同じ場所に留まっていたくない。視野が狭まってしまっている。日本で学び始めて4年。中東の政治経済について学びを深めたい。卒業後はドイツの大学院への進学を見据えている。

ベトナム・ホーチミン市出身。母は日本語教師。父も日本語の元通訳者で、中学生の頃には自らも日本語を学んだ。

気持が強くなった「もっと個別に話したかった」との感想が寄せられた。同学類広報委員の鈴木伸一と話をした。

同学類が相談会などに参加した高校生に実施したアンケートでは、「志望する学類が明確になった」という声も多かった。

**生物学類**  
生物学類は、学類紹介、学類生によるキャンパスライフの紹介、研究紹介などの動画をウェブとYouTubeで公開した。

8月14・17日には教員による個別相談会をZoomで開催。8月21日にはポインティングツール「oivi」

**体芸エリアから**  
体育・芸術エリアの福利厚生棟にあったコンビニ「ニューヤマザキデイリーストア」と食堂「膳の庵」が7月31日に閉店した。コンビニと食堂は同棟耐震改修後の2019年に開店したが、新型コロナウイルスの影響で、昨年4月から休業していた。第三学群食堂、平砂食堂に続くコロナ禍での撤退となる。コンビニは19年11月に開



2019年の夏、筑波大JAZZ愛好会OB・OGが参加して演奏した。提供=筑波大JAZZ愛好会

合宿は親睦深める場  
筑波大JAZZ愛好会は、9月下旬に長野県で予定していた4泊5日の夏合宿の中止を8月に決めた。合宿中止は2年連続となる。

合宿場所は、スタジオやライブ会場を備えた宿泊施設。2班に分かれ、その中でバンドを組んで練習を重ね、最終日はその成果を発表するという形で披露するはずだった。

会長の大吉ひなたさん(人文3年)は「合宿は1年生からOB・OGまで幅広く参加し、交流を深めたり、技術の向上を図ったりできる貴重な機会。1年生にとっては初めてバンド練習をする場であり、今年

**技術を磨く機会失う**  
筑波大剣道同好会は例年、年3回の合宿を行っているが、昨春以降は全て中止している。今夏は、合宿の代わりに学内の武道場で丸1日、強化練習を行う計画を立てたが、大学からの

団体活動全面自粛要請を受けて、これも中止となった。主将の山本賢生さん(人文3年)は「長期休みを利用して個人の技術を磨いたり、メンバー間の仲を深めたりする貴重な機会が失われた。残念」と語る。

コロナ禍は、対外試合の機会も奪っている。同会のメンバーが参加してきた「関東甲信越大学体育大会」や「秋季関東理工科系剣道大会」は昨年度から中止されている。

こうした状況の中、メンバーの士気は低下傾向にある。山本さんによれば、コロナ禍前は毎回10人以上が稽古に集まっていたが、全面自粛前の数ヶ月は多くて6、7人で、1人しか参加しない日もあった。

山本さんは「2年生以下のメンバーは、活動自粛の影響で、そもそも顔を合わせる機会が少なかった。同好会の新たな役職決めの話合いもできていない」とサトル運営の今後に対する懸念も口にした。

# 課外活動の制限なお続く 窮地に陥る団体活動

【2面参照】筑波大の課外活動団体の行動が制限された状態が1年半も続く。新型コロナウイルスの感染拡大のため。多くの団体が2年連続で夏合宿などの中止に追い込まれ、OB・OGとの交流や、集中練習で技術を向上させる機会を失った。今年8月から9月にかけての丸1カ月間は、原則として団体活動の全面自粛が要請され、活動はさらに制限された。窮地に陥る課外活動団体を取材した。

(小栗あおい)社会学類2年、寺尾優汰

も多くのメンバーが参加を予定していた。中止は残念だと悔しさを隠さない。コロナ禍は通常の活動にも影を落とす。毎週金曜日に文化系サークル館に集まって、セッションをしているが、人数制限や参加者の健康観察記録の徹底などの対策を取っている。以前はOB・OGもよく参加していたが、学外者との接触を避けるため、それも難しくなってしまったという。

大吉さんは「先輩たちと一緒に演奏は技術の向上につながる。足りないパートを補ってもらうこともあった。それができず、活動に支障が出ている」と話す。

合宿場所は、スタジオやライブ会場を備えた宿泊施設。2班に分かれ、その中でバンドを組んで練習を重ね、最終日はその成果を発表するという形で披露するはずだった。

会長の大吉ひなたさん(人文3年)は「合宿は1年生からOB・OGまで幅広く参加し、交流を深めたり、技術の向上を図ったりできる貴重な機会。1年生にとっては初めてバンド練習をする場であり、今年



木刀でスイングの練習をする筑波大剣道同好会メンバー。提供=筑波大剣道同好会

動してき た。稽古中は全員が、通気性がよく、動いてもずれにくいスポーツ用マスクを着用するなどの対策を取っている。

こうした状況の中、メンバーの士気は低下傾向にある。山本さんによれば、コロナ禍前は毎回10人以上が稽古に集まっていたが、全面自粛前の数ヶ月は多くて6、7人で、1人しか参加しない日もあった。

**留学生の声**  
ベトナム ミン・グエン  
(地球規模課題 学位プログラム)

「ずっと同じ場所に留まっていたくない。視野が狭まってしまっている。日本で学び始めて4年。中東の政治経済について学びを深めたい。卒業後はドイツの大学院への進学を見据えている。」

ベトナム・ホーチミン市出身。母は日本語教師。父も日本語の元通訳者で、中学生の頃には自らも日本語を学んだ。

魅力的だったから。授業は全て英語。気候変動や食糧問題などの解決に取り組み人材育成を掲げ、1年時は国際基督教大(ICU)でリベラルアーツ科目群を履修するなど、分野横断的な幅広い学びができる。

ICUで印象に残ったのが欧州連合(EU)や東南アジア諸国連合(ASEAN)など国際機関に関する講義だ。国際的な視点を持ち、英字新聞にも寄稿する教員と話をする中で、国際政治に興味を湧かされた。

筑波大では、柏木健一教授(人社会)が担当する中東地域の講義に引かれた。「中東は、貿易を通じてアジアと欧州の文化が混じり合う場所として繁栄してきた。これからは、カリキュラムがらもさまざまな多様性がある」と感じた。それでも時間を見つけては、中東についての本を読んだり、インターネット上で無料公開されている米国の大学の映像授業を視聴したりする中で、幅広い

生じるポテンシャルがある。今年からは柏木教授のゼミに所属し、中東の政治経済や、統計データをを用いて理論や仮説の妥当性を評価する実践分析の手法を学んでいる。

コロナ禍の影響もあって、筑波大での学びは必ずしも、思い描いた通りには進まなかった。対面の講義は減り、教員や学生同士で議論する機会も少なくなった。一方で、課題量は増え、単位を取るための勉強で手一杯になることもあった。

学びたい時に学びたい内容が学べるわけではない、と感じた。それでも時間を見つけては、中東についての本を読んだり、インターネット上で無料公開されている米国の大学の映像授業を視聴したりする中で、幅広い

知識を蓄えようと努めてきた。

将来はACLEDに所属し、中東に関する情報を収集、提供することで地域の役に立ちたいという。現場の状況を適切に反映した政策を作るには、国家やイデオロギーにとらわれない、正確な情報の分析が必要だと考えるからだ。

ドイツ留学を希望するのは、欧州の中でも影響力が強い国で、中東との関わりも深いから。移民との交流にも期待できる。社会に貢献するためにはどうすればよいかを模索するつもりだ。(島崎翔)医学類4年、写真(本人提供)

**ACLED**はアフリカ・中東を中心に、紛争や衝突の発生場所やその詳細情報を記録・公開している国際NPO。

知能を蓄えようと努めてきた。

将来はACLEDに所属し、中東に関する情報を収集、提供することで地域の役に立ちたいという。現場の状況を適切に反映した政策を作るには、国家やイデオロギーにとらわれない、正確な情報の分析が必要だと考えるからだ。

ドイツ留学を希望するのは、欧州の中でも影響力が強い国で、中東との関わりも深いから。移民との交流にも期待できる。社会に貢献するためにはどうすればよいかを模索するつもりだ。(島崎翔)医学類4年、写真(本人提供)



# 海外留学部分的に再開

## 依然として渡航難しく

筑波大は7月から、1年間の交換留学プログラムであるなどの条件付きで学生の海外留学を認めた。学生の所属組織からの申請を審査し、国際担当副学長が個別に判断する。ただし、コロナ禍で海外渡航が難しい状況に変わりはしない。留学の許可条件や留学が決まった学生の声を取材した。

### 文科省の通知受け

今回の変更は、文科省が6月に出した通知「本人学生の海外留学について(周知)」に基づき、

通知は、各大学が学生の安全確保に万全を期すことを前提に、大学間交流協定などに基づく1年間(実際

**渡航申請が可能なプログラム**  
・1年間(実際の派遣期間9カ月以上)の交換留学プログラム  
・海外大学で学位取得を目指す大学院生向けのプログラム



←留学に関する情報は、  
スチューデントサポート  
センターのウェブサイトで

の派遣期間9カ月以上の海外留学プログラムの再開を認めている。国内外でワクチン接種が進んでいることなどを踏まえたという。留学にあたっての留意点として、▽渡航先の感染状況や感染防止策・感染した場合の現地の医療体制の確保▽帰国の防疫措置の把握

長期留学に限って再開を認めたとについて、文科省は▽短期間の往來人数が増える▽感染リスクも高まる可能性がある▽日本への入国制限が続いており、予定通り帰国できない場合がある▽現地に着いても隔離期間の影響で実際の学習期間が短くなる—などを考慮したとしている。

日本学生支援機構では通知に合わせ、留学期間1年間の長期留学に対する奨学金支給を再開した。

筑波大は、外務省が発出する「危険情報」と「感染

期間は9カ月で、発達時期の脳における葉酸の役割について研究する。

## 短期雇用の時給引き上げ 茨城県内 4年連続

筑波大は10月1日、短期雇用の時給を筑波キャンパスなど茨城県内では880円(20円増)、東京キャンパスなど東京都内では1050円(30円増)に引き上げた。同日、県と都

昨年9月から留学する予定だったが、コロナ禍で延期になった。今年もできないと考えていたが、文科省の通知発表を受け、8月末に大学から渡航許可が下りた。渡航までの約3週間で急いで準備をしたという。

池田さんは「コロナ禍で人との交流が制限されるため、現地のコミュニティにうまく入れるか不安がある。オンラインも活用し現地の学生と積極的に交流したい」と話した。

その際に、①教育上の観点からの基準(留学先へ直接赴いて修学しなければならぬ理由があることなど)②安全上の観点からの基準(現地の状況把握やフォロワー体制の確立など)の二つの基準を踏まえて判断する。

今回の措置を踏まえ、筑波大海外留学支援事業(ははだけー筑大生)の支援も再開された。

池田玲奈さん(生物4年)は、9月20日から英マンチェスター大に留学中だ。

### 渡航学生の声

櫻井藍花里さん(国際3年)は、9月12日からフランスのパリ・ラ・ヴィレット建築大に留学している。期間は10カ月で、住宅のデザインや設計図の書き方などを学ぶという。

## 無償で本を受け渡し

### コミュニティブックシエルフ管理者募集

2016年、学内の本のリユースを促進するために設置された本棚「コミュニティブックシエルフ」の新しい管理者を、つくば3Eフォーラム学生委員会が募集している。

この本棚は、低炭素社会の構築を目指す同委員会が



管理者を募集中のブックシエルフ(9月22日、中央図書館で)

て棚を整理し、ノートが適切に使われているかなどを確認している。「図書館の雰囲気を変えないよう、本

持ち帰る。同委員会によると、本棚には主に学術書と小説が置かれ、年間約600冊が交換されている。

現在の管理者は與谷剛さん(国際4年)で、18年から一人で務めてきた。週に約2回、中央図書館に通

以外のものが置かれていないか気を使ってきた」と言う。だが、與谷さんは来年3

月に卒業予定で、また後任が見つからない。図書館内

と違い、無秩序に並ぶ書籍の中から未知の分野と偶然

出会えることが、この本棚の一番の魅力だ。一緒にその場を作りましょう」と、後継者が名乗りを上げることに期待を寄せている。

問い合わせはメール(3e@tsukuba.ac.jp)で、

社会学類2年、写真も)

筑波大の短期雇用は1カ月以内の期間で採用する雇用形態。大学説明会やシンポジウムでの運営補助、教員の事務補助などが主な業務内容だ。勤務場所は両

筑波大の短期雇用は1カ月以内の期間で採用する雇用形態。大学説明会やシンポジウムでの運営補助、教員の事務補助などが主な業務内容だ。勤務場所は両

筑波大の短期雇用は1カ月以内の期間で採用する雇用形態。大学説明会やシンポジウムでの運営補助、教員の事務補助などが主な業務内容だ。勤務場所は両

筑波大の短期雇用は1カ月以内の期間で採用する雇用形態。大学説明会やシンポジウムでの運営補助、教員の事務補助などが主な業務内容だ。勤務場所は両

筑波大の短期雇用は1カ月以内の期間で採用する雇用形態。大学説明会やシンポジウムでの運営補助、教員の事務補助などが主な業務内容だ。勤務場所は両



一人の高齢女性がこちらに顔を向けている。「戸惑い」と題された写真に写る女性の鼻は、変形していた。寂しそうな目が



2年前の渡航で、団員が村の子供たちと一緒に絵本を読む様子=同団体提供

インドはハンセン病の新規患者数が世界で最も多い。差別や偏見が根強く、適切な治療を受けられなかったり、職に就けなかったりして、物乞いで生計を立てる人も少なくない。ハンセン病回復

インドはハンセン病の新規患者数が世界で最も多い。差別や偏見が根強く、適切な治療を受けられなかったり、職に就けなかったりして、物乞いで生計を立てる人も少なくない。ハンセン病回復

## コロナ禍で紡ぐハンセン病支援

2年前の渡航で、団員が村の子供たちと一緒に絵本を読む様子=同団体提供

**広告掲載欄**  
(紙面のみでの掲載となります)

広告のお問い合わせは  
電話 029 - 853 - 6699  
Eメール shinbun@un.tsukuba.ac.jp  
(筑波大学新聞へのご意見・お問い合わせも上記までお願いいたします)



# Who's Who?

コミュニティナースを全国に

## ふさやま 総山 萌 さん (看護4年)



コミュニティナースを看護学生に知ってもらおうと取り組む総山さん=本人提供

「コミュニティナースを知ってもらおう活動を今春から始めた。ナース(看護師)という職業で勤務している姿が思い浮かぶが、総山さんによれば「地域の中で人とつながり、元気を一緒に作ること」を実践する人や行参(やんさん)のものを指す。カフェの経営者が常連さんなどとの交流会を開き、日常生活

の様子を聞いて、健康状態を気に遣う。これも「コミュニティナース」にあたる。

今年3月には、クラウドファンディングで300万円の活動資金を集め、全国約1000校以上の看護学校にこの実践の在り方を紹介している本の寄贈を始めた。9月には、その実践者と学生がつながるオンライン

イベントも開催した。「看護学生の第一選択は病院への就職だが、それ以外のキャリアもさまざまなにある。キャリアの選択肢を広げ、自らが実践したいケアを見つめ直すきっかけになれば、と考えた」と話す。

小学2年時に母を亡くし、父子家庭で育った。「父に心配をかけたまじと踏ん張る自分」を守ってくれたのが、保健室の養護教諭たちだった。特に高校生の時は心身の不調で教室に行けない日が続いたが、保健室や別室を活用しながら自分と向き合っていた。

次第に自分も養護教諭になりたいと思うようになった。子供の心身の健康を守り、生きる力を高めるために、看護学も教育学も両方極めたい。そう考えて進学先に選んだのが、学内外での学びを後押しする仕組みを設けている筑波大看護学類だった。

入学後は保健室ボランティア

## 看護学生の選択肢を広げたい 目指すはまち中の養護教諭

「まちの中」に在る養護教諭の姿に共通点を感じ、「自分のキャリアを考える良い機会になると考えた」と振り返る。

インターンでは、主に「地域おせっかい会議」に携わった。地域住民が集まり、それぞれがやりたいことやおせっかいでき

矢田さんが提唱する「コミュニティナース」と、自分が思い描く「まちの中」に在る養護教諭の姿に共通点を感じ、「自分のキャリアを考える良い機会になると考えた」と振り返る。

看護実習などで学生生活が忙しさを増す中、大学3年の終わりから1年間休学し、コミュニティナースの普及に取り組む「Community Nurse Company (CNC)」(島根県雲南市、矢田明子代表)でインターンをした。

「この経験を多くの看護学生たちと共有したいと、クラウドファンディングに挑戦した。9月のオンラインイベントには全国から100人近くが参加した。イベントを通じて存在を知ったコミュニティナースに会いに行くと学生もいた。「イベントをきっかけに自分のキャリアについて考え、実際に行動する学生がいることがうれしい」と総山さん。

卒業後はCNCに加わりながら、「まちの中の養護教諭の在り方も模索していくつもりだ。(中山友明香 生物学類2年)

卒業後はCNCに加わりながら、「まちの中の養護教諭の在り方も模索していくつもりだ。(中山友明香 生物学類2年)

卒業後はCNCに加わりながら、「まちの中の養護教諭の在り方も模索していくつもりだ。(中山友明香 生物学類2年)

卒業後はCNCに加わりながら、「まちの中の養護教諭の在り方も模索していくつもりだ。(中山友明香 生物学類2年)

卒業後はCNCに加わりながら、「まちの中の養護教諭の在り方も模索していくつもりだ。(中山友明香 生物学類2年)

卒業後はCNCに加わりながら、「まちの中の養護教諭の在り方も模索していくつもりだ。(中山友明香 生物学類2年)

次号は 11月5日(金) 発行予定です

茨城県独自の非常事態宣言が出されたことを受け、夏季休業期間中の課外活動が全面活動自粛になりました。11面▼本紙でも新型コロナウイルス感染症拡大以降、取材や会議がオンライン化し、後輩部員とかなか対面でコミュニケーションが取れません。残りの2カ月ほどで執行部も交代します。先輩から教わった記者としてのあり方を、後輩たちにきちんと伝えることができていたのか、悩む日々です▼2014年に本紙で編集長を務めた平嶋健人さんを取材しました(障害科学類3年)

した(3面)。本紙の名物コーナー「反射鏡」が、現在の街頭インタビュ形式になったきっかけを聞きま

した(3面)。本紙の名物コーナー「反射鏡」が、現在の街頭インタビュ形式になったきっかけを聞きま

した(3面)。本紙の名物コーナー「反射鏡」が、現在の街頭インタビュ形式になったきっかけを聞きま

印刷ヒラマ写真製版

発行所 筑波大学

編集後記

編集・発行

編集後記

## 職域接種 1回目完了



大会館でワクチン接種前に問診を受ける筑波大生=代表撮影

1面へ

## 五輪メダリストが表敬訪問



永田恭介学長(中央)に表敬訪問する梶原(左)と永瀬(右)(8月20日、本部棟で)=車谷郁実撮影

1面へ

## 非接触で文字入力



つくばメディアアートフェスティバルの展示を体験する来場者(8月5日、つくば美術館で)=北川瑠菜撮影

5面へ

## 体芸エリア コンビニ・食堂閉店



業者によって閉店作業が行われている体芸エリアのコンビニ(7月30日、体芸エリアで)=北川瑠菜撮影

10面へ

学内総合

学内総合

学芸

学生生活